

[阪神・淡路大震災への支援活動に対する謝辞（神戸市）]



平成7年7月

名古屋市衛生局長 様

神戸市衛生局長 坪井 修平

謹啓 盛夏の候、ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。

さて、このたびの阪神・淡路大震災に際しましては、御多忙のおりにもかかわりませず、被災住民の救助、保健・医療活動に格別のご尽力を賜り誠にありがとうございました。厚くお礼申し上げます。

被災当初から長期間にわたり、保健・医療救護班の方々の不眠不休の献身的な活動により、避難所でのインフルエンザの大流行や伝染病の発症もなく、住民も安心して避難生活を送ることができました。市民をはじめ職員も少しは落ち着きを取りもどしてきている現状でございます。

救護活動にかけつけていただいた際は、混乱のなかで十分な受入れ体制もなく大変ご迷惑をおかけいたしました。もっと早くお礼を申しあげるべきところでしたが、依然として2万人余の市民が避難所生活を余儀なくされており、また仮設住宅への入居の進む中、保健活動はまだ始まったばかりといったところでございます。

私共職員一同、皆様の暖かいご支援を糧として、神戸市の復興に向けての一層の精進を決意するところであります。

今後とも当市に対し、尚一層のご支援とご指導を賜りますようお願い申し上げます。

まずは書中をもってお礼申し上げます。

敬具



平成7年7月

名古屋市衛生局長 様

神戸市衛生局長 坪井 修平

謹啓 盛夏の候、ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。

あの大震災からはや6カ月を迎えようとするなか、街もようやく明るさを取り戻し、着実に復興へと向かっております。

さて、この度は大変ご多忙の中、被災住民のため、いち早く保健活動に従事していただき、厚く御礼を申し上げます。

特に、避難所や在宅を中心に巡回健康相談や健康教育を積極的に実施していただき、多くの人々が安心して生活を送ることができました。また、高齢者や障害者の方々にとって、保健婦の訪問は大きな心の支えとなりました。さらに本市保健婦にとっても皆様の温かい御支援を受け、保健活動を展開することができました。また、現在、仮設住宅への入居が進む中、入居者への巡回健康相談も皆様方の応援により多くの要援護者の把握をすることができ、必要な保健・福祉・医療サービスへとつなぐことができつつあります。

まだまだ仮設住宅を重点においた保健活動が続くと思いますが、全国の皆様方からいただいた御支援を大切にしながら私共職員、力を合わせて神戸市民の健康を守るべく一層努力をしていきたいと思っております。

今後とも、皆様方の御支援と御指導を賜りますようお願い申し上げます。

まずは書中をもって御礼申し上げます。

敬具

神東保第306号  
平成7年7月10日

名古屋市 衛生局長様

神戸市東灘保健所長  
石井昌生



阪神・淡路大震災への保健婦・看護婦の訪問支援活動に対する謝辞

謹啓 炎暑の候、ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。

この度の大震災発生後、早くも6ヶ月が経過する中、被災者の仮設住宅入居も順次進み、この7月末で避難所の解消に向けて、努力をしているところでございます。

仮設住宅の入居者は梅雨の大雨や、炎暑という生活環境の中で毎日不自由な生活をしているという現況の一方で、震災により、街の姿がすっかり様変わりした中にも、少しずつではありますが、復興に向け活気が戻りつつあるという状況でございます。

この間、貴県（市）保健所の皆様方には、大変お忙しいところ避難所をはじめ仮設住宅への訪問活動に、長期継続的に多くの保健婦・看護婦のスタッフをご派遣下され、スタッフの方々の献身的かつ精力的なご支援ご指導を賜りましたことに対し、心から厚く御礼申し上げます。

皆様方のご好意のお蔭をもちまして、関係職員はもとより被災者すべてが勇気づけられ、被災の中から立ち上がることが出来た次第でございます。

ここにあらためて厚く御礼申し上げます。

今後、神戸の復興にはなお相当の日時が必要ではございますが、一日も早く復興をめざして、一層の努力を傾注してまいり所存でございます。

関係各位におかれましても、引き続き温かくお見守りくださるとともに、変わらぬご支援ご指導をいただきますようお願い申し上げます。

ここに、略儀ではございますが、ご支援に対しての謝辞とさせていただきます次第でございます。

本当にありがとうございました。

敬具